

全学的な教育改革をどう進めるか ～関西国際大学の事例～



関西国際大学
濱名 篤

1

関西国際大学の紹介

歴史

- 1998年 開学(短大は募集停止)。経営学部
- 2001年 人間学部学部増(人間行動学科、英語コミュニケーション学科)
- 2004年 特色GP採択「大学教育のユニバーサル化と学習支援」
- 2005年 大学院人間行動学研究科人間行動学専攻修士課程開設
- 2006年 人間行動学科を教育福祉学科と人間心理学科に改組
- 2007年 経営学部と人間学部を、人間科学部と教育学部に全面改編
- 2009年 三木キャンパスに加え、尼崎キャンパスをJR尼崎駅前に開設

話題

- GPAによる退学勧告(1998～)
- 学習支援センター(1998～。全国初)
- 学習奨励金(1999～。全国初)前身はバウチャー制(全国初。短大時代の1995～2003)
- 初年次教育(2001～)
- キャンパス・マイレージ(2004～。全国初)
- KUIS学習ベンチマークの制定(2006～)

2



3

教育課程の特徴

尼崎：専門職の目的養成(教育、保育、福祉)

教育学部：教育福祉学科-こども学専攻、福祉学専攻

【幼・保・小学校教員・特別支援】

英語教育学科【中高英語教員、特別支援、小Ⅱ】

三木：人社系(心理、経営)の多様な職業人育成

人間科学部：人間心理学科-臨床心理、思春期心理、スポーツ心理、犯罪科学、社会心理、各専攻

ビジネス行動学科-ビジネス行動専攻、
スポーツマネジメント専攻

(全学共通)基本教育(初年次教育は全国屈指)+専門基礎教育

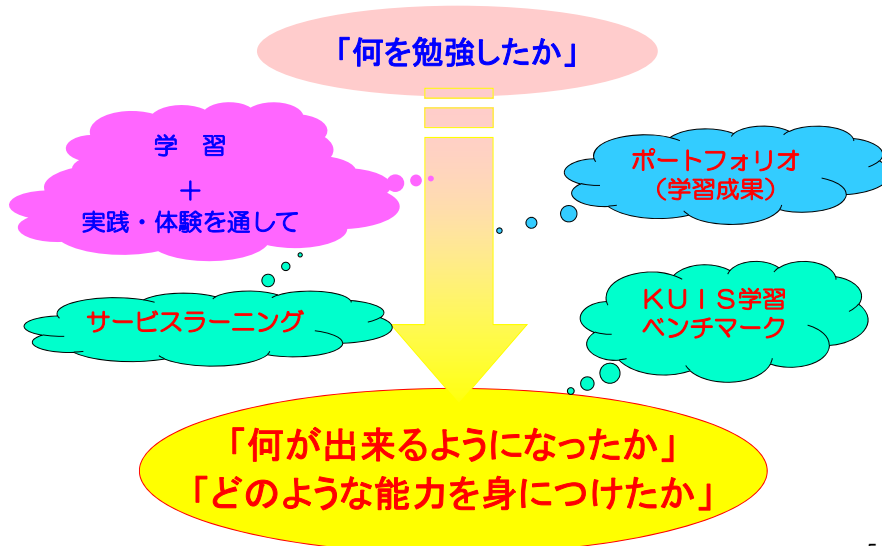
→高校からの”円滑な移行“を促進する教育の重視

教室内学習だけでなく、教室外の教育活動との有機的連携を図る

→知識と経験の総合化を図る

4

関西国際大学の教育方針の基本



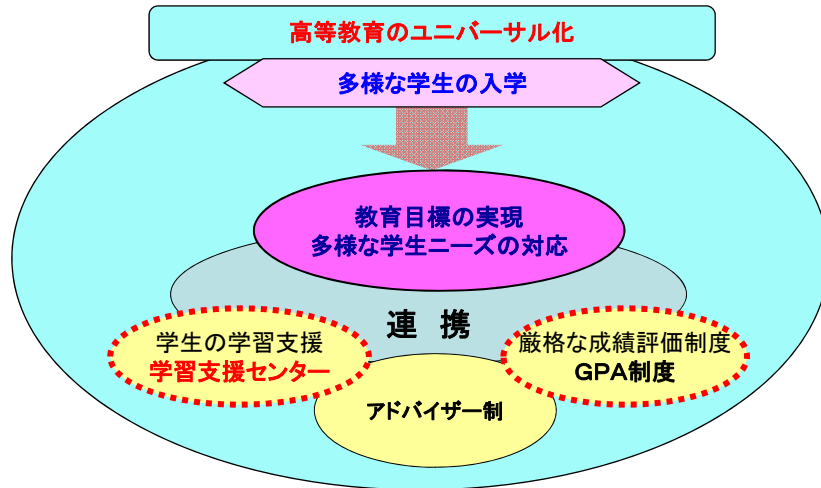
5

関西国際大学のFD課題の変遷

- ユニバーサル化高等教育における多様な学生への対応
- GPA導入だけで自律できない学生
- 学習支援センターの組織化・重層化
- 初年次教育の導入
- 学生ポートフォリオの導入
- KUIS学習ベンチマーク制定(06. 3. 11)
- ペダゴジー改革(Active Learning)の本格化
- 入学前教育～初年次教育～キャリア教育～ゼミ改革を縦軸とする、学士課程教育の再構造化
- 初年次サービラーニングとポートフォリオ評価
- 同時期開講科目の連携強化(クラスター化)
- 科目評価における評価の観点・基準の明確化

6

関西国際大学学習支援センター(1998～)の取り組み



高等教育のユニバーサル化により多様な学生への学習支援が必要

7

KUISベンチマークと アクティブ・ラーニング

ベンチマーク導入の効果

ベンチマーク(到達基準)の達成度を段階的に測ることで、各自が学習の達成度と努力目標の自覚が可能になる



教育内容の着実な修得をめざす

ベンチマーク達成のためのペダゴジー改革

8

KUIS学習ベンチマークの学生への周知例

< KUIS学習ベンチマーク >

自律できる人間になる
自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意図的に行動すると共に、自らを律しつづ、自分の成長や行動に責任のあることを自覚できる。
社会に貢献できる人間になる
社会の決まり事を大切に考え、自分の責任を誠実に果たすために、勇気をもって行動し、社会に貢献することができる。

心豊かな世界市民になる
多様な世界の人々や自分たちの社会について理解を深め、社会的に異文化の人々に対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界市民として行動することができる。

問題解決能力を身につける
状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題解決の視点から、解決のアイデアを構想したり、企画したりする思考力や判断力を身につけることができる。
※図表・表・グラフ、コンピュータによるWeb検索、「知へのステップ」の活用などのこと

コミュニケーション能力を身につける
社会生活を営む上で、他人の考えを受け止め、理解し、自分の考えを的確に表現するプレゼンテーション（レポート、口頭発表）ができ、意見交換ができる。

専門分野で習得する知識や技能は、「総合化する」ことによって、より実践的な能力として身に付くと考えることが大切です。
ここで、「総合化する」とは、単に知識や技能を寄せ集めるのではなく、既に身に付けた知識や技能を、その時、その場の状況に応じて、再構成し、更新することです。その際、ベンチマークに示す資質や能力を相互に有機的に結びつけることによって、より実践的な能力として活用することが可能になります。
ベンチマークに示す資質や能力が生きて働く力として機能するために、知識や技能を「総合化する」学習の機会（卒業研究など）を積極的に活用してください。

知識好奇心 新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつことができる。
学習意欲 自分が「知識や技能」「実践的な能力」を身に付けていく過程を「学び」の喜びを感じていくことができる。

計画性 自分が取り組むべき課題や目標を明確にし、その達成のために必要な行動や努力を計画し、実行することができる。

誠実性 誠実に行動し、自分の責任を誠実に果たすことができる。

協同性 協同的に行動し、自分の責任を誠実に果たすことができる。

多様な理解 異なる文化や価値観、言語や習慣などについて理解を深め、多様な文化や価値観を尊重し、協同的に行動することができる。

共感性 多様な文化や価値観、言語や習慣などについて理解を深め、多様な文化や価値観を尊重し、協同的に行動することができる。

情報収集/整理力 必要な情報や資料を収集し、整理し、活用することができる。

企画力 企画やプロジェクトを立案し、実行することができる。

判断/判断力 状況に応じて、適切な判断や決定を行うことができる。

プレゼンテーション/発表力 レポートや口頭発表、発表結果の報告などを行い、自分の考えや意見を明確に伝えることができる。

リーダーシップ/メンバースhip 多様な文化や価値観、言語や習慣などについて理解を深め、多様な文化や価値観を尊重し、協同的に行動することができる。

協同性 協同的に行動し、自分の責任を誠実に果たすことができる。

Student Guide

9

KUIS学習ベンチマークのチェック項目

全学共通大項目	中項目
自律した人間	責任性、自律性、計画性、..
社会貢献できる人間	誠実性、協調性、遂行性
心豊かな世界市民	共感性、多様性、責任性、..
問題解決能力	企画力、情報収集/整理力、..
コミュニケーション能力	協調性、質問/コメント力、..

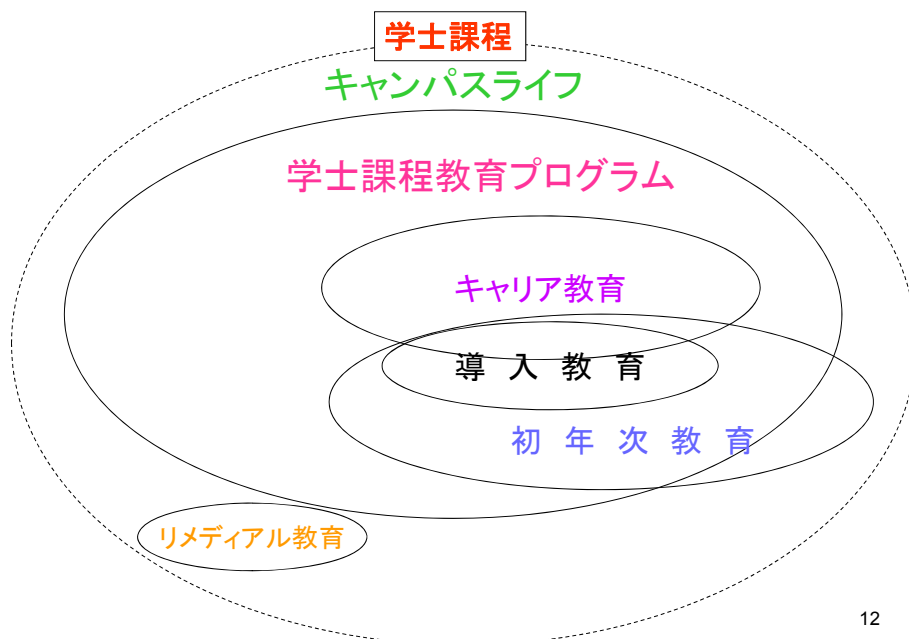
ジェネリック・スキル

ユニバーサル時代の学習支援

- 初年次教育
 - アカデミック・アドバイジング
 - リメディアル教育
 - キャリア教育
 - 学習支援
 - メンタル・ケア
 - 学生生活支援
- 何をどこまでするかは、各大学の機能・目標次第
→個々の支援が単独で機能するか？
→職員任せやアウトソーシングでできるか？

11

初年次教育・導入教育・キャリア教育・リメディアル教育との関係(概念図)



12

初年次教育の内容

- ①大学生活への適応(大学生活、学習、対人関係等)
- ②大学で必要な学習技術の獲得(読み、書き、批判的思考力、調査、タイム・マネジメント)
- ③当該大学への適応
- ④自己分析
- ⑤ライフプラン・キャリアプランづくりへの導入
- ⑥学習目標・学習動機の獲得
- ⑦専門領域への導入

→これらの内容を、各大学・学部の教育目標、現状を勘案して取捨選択してカスタマイズする

本学: 春学期「キャリア・プランニング」(①～⑥)

「学習技術」(②) + 概論科目(⑦)

秋学期「基礎演習」(②、④、⑤、⑥、⑦)

13

ウォーミングアップ学習 科目の変遷 (本学の初年次教育型の入学前教育)

2003年～2004年

- スタディ・スキルズ、
- コンピュータ入門、
- 英語科目(2003: CASEC、2004: 基礎英文法復習)
- タイムマネジメント

※学生が科目を自由に選択して受講

2005年～2008年

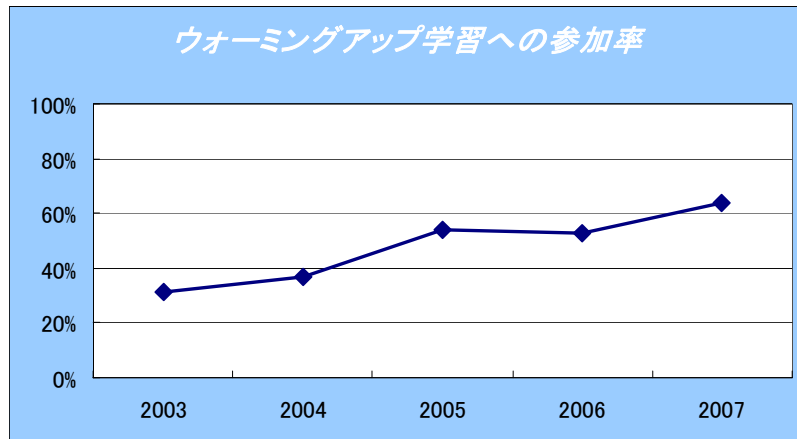
スタディ・スキルズ

- タイムマネジメント
- ゼミナール入門
- 生活サポート

※ゼミナール入門は必修、他は自由選択。

14

8-6. ウォーミングアップ学習参加率の推移



15

アンケート結果より(平成19年度実施分)

- 受講理由(複数回答)
 - 授業内容に興味があったから...69%
 - 大学生活に不安があったから...69%
 - 家族などからすすめられて...16%
 - 自宅が大学に近かったから...6%
- 各教科の内容について
 - 理解できた・役に立った...92%

16

「ウォーミングアップ学習」受講前後の 大学生活への期待度の変化

- 受講前後の期待度の変化(1-10段階)

受講前	受講後
平均値 6.25	平均値 7.16

※平均0.9ポイントアップ

17

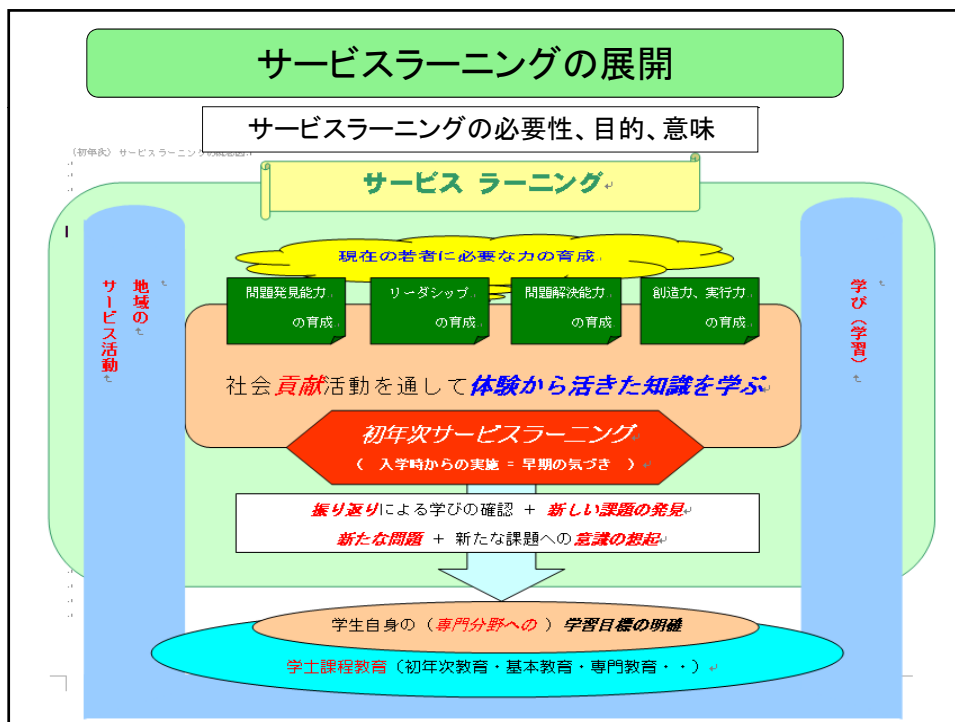
「ウォーミングアップ学習」受講前後の 大学生活への不安度の変化

- 受講前後の不安度の変化(1-10段階)

受講前	受講後
平均値 6.31	平均値 4.69

※平均1.62ポイントダウン

18



本学教育の抱える課題

学生たちへの“支援”と“自律”のバランス

就職活動は自分で能動的に・自律的に取り組まざるを得ない

卒業後まで大学は支援を続けられない

多様な学生たちそれぞれに応じた教育と支援

講義と多様な経験との“総合化”の重要性

サービラーニング、インターンシップ、留学
クラブ活動、学生会、ボランティア

アルバイトや就職活動による学業専念への支障

単位の実質化 = 学習時間の確保

→戦略的大学連携、教育GP等で取組中

20